

発議第1号

川上ダム事業の推進に関する決議（案）について

川上ダム事業の推進に関する決議（案）を次のとおり提出しようとする。

平成25年2月13日提出

提出者 伊賀市議会議員

中本 徳子

生中 正嗣

上田 宗久

中井 洸一

中盛 汀

西澤 民郎

森 正敏

空森 栄幸

渡久山カナエ

松村 頼清

岩田 佐俊

安本美栄子

中岡 久徳

森岡 昭二

記

## 川上ダム事業の推進に関する決議（案）

私たちの住む伊賀地域は、過去より幾度となく浸水被害に悩まされていることから、先達は水害の一因となっている岩倉峡の狭窄部を開削し、洪水時に浸水被害が起こらないようにと強く要求してきた。しかし、河川管理者は、木津川下流域や淀川の河川改修が進展するまでは、抜本的な開削はできないとし、上野遊水地事業、木津川上流域の河川改修及び川上ダム建設事業の三施策による治水計画が立案されたところである。

以上のような経緯から、この三つの施策は私たちの地域にとって治水対策の根幹をなすものであり、一つでも欠けると生活の「安全と安心」を守ることができないと考える。

また、利水面においても安定的な水源を確保するため、川上ダムからの受水を前提として三重県企業庁が実施してきた「伊賀水道用水供給事業」を、平成22年4月に「伊賀市」が継承している。しかし、暫定豊水取水での稼働率は約50%しかなく、川上ダムが未完成の中で、安定的な取水量の確保に問題があり、川上ダムの早期完成が残された大きな課題となっている。

川上ダム建設事業は、淀川水系流域委員会で7年余りにわたり議論され、平成21年3月末に策定された「淀川水系河川整備計画」において明確に位置づけられ、平成21年4月17日には「淀川水系における水源開発基本計画の変更」が閣議決定され、ダム完成年度が平成27年度と示された。しかしながら、先の民主党政権時において「出来るだけダムに頼らない治水」への政策転換で検証の対象とされ、近畿地方整備局に設置された「川上ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場」において、平成23年1月からこれまでに4回の幹事会が開催され、ダム事業の検証に係る検討がなされている。

私たち地域住民にとって、この地で安心して暮らすため、治水・利水対策は大変重要であり、早急な対策の実現を必要とし、旧上野市議会や旧青山町議会で国や関係機関に建設促進の要望を行ってきた。伊賀市議会としても、川上ダム建設事業促進の経緯を踏まえ、平成18年には特別委員会を設置し、調査・研究を行ったのをはじめ、国等へ事業促進の要望を行ってきたところである。しかしながら、先に公表された平成25年度の政府予算案で、川上ダム本体工事の予算が計上されていない。昨今のゲリラ豪雨では、洪水時に非難を余儀なくされる地域や、合流地点では浸水被害を受けている地域もある。

私たち伊賀市議会は、市民生活の安心と安全確保のため、川上ダム本体の早期着手・完了を引き続き要望し活動する。

以上、決議する。

平成25年2月13日

三重県伊賀市議会